

○津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱

令和元年6月12日

告示第59号

改正 令和2年3月3日告示第17号

令和3年4月15日告示第45号

(趣旨)

第1条 町長は、町内への移住・定住の促進及び中小企業等における人手不足の解消に資するため、東京圏から津南町へ移住して就業又は起業した者に対し、予算の範囲内において、津南町移住・就業等支援事業補助金(以下「補助金」という。)を交付するものとし、その交付に関しては、新潟県移住・就業支援事業及び新潟県起業支援事業実施要領(平成31年4月1日付け新暮第6号県民生活・環境部新潟暮らし推進課長通知)、津南町補助金等交付規則(昭和31年規則第10号)その他の法令及び関係通知のほか、この要綱の定めるところによる。

(用語の定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 東京圏 埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県をいう。
- (2) 東京23区 地方自治法(昭和22年法律第67号)第281条第1項に規定する特別区の区域をいう。
- (3) 条件不利地域 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法(令和3年法律第19号)、山村振興法(昭和40年法律第64号)、離島振興法(昭和28年法律第72号)、半島振興法(昭和60年法律第63号)又は小笠原諸島振興開発特別措置法(昭和44年法律第79号)の指定区域を含む市町村(政令指定都市を除く。)をいう。
- (4) 移住 津南町へ住民票を異動し、生活の本拠地を津南町に移すことをいう。

(補助対象者)

第3条 補助金の交付の対象となる者(以下「補助対象者」という。)は、第1号の要件を満たす者のうち、第2号、第3号、第4号及び第5号のいずれか

の要件を満たす就業又は起業に該当し、かつ、2人以上の世帯の申請(以下、「世帯向けの申請」という。)をする場合にはあっては第6号の要件を満たす者とする。

(1) 移住等に関する要件 次に掲げるア、イ及びウに該当すること。

ア 移住元に関する要件 次に掲げる事項の全てに該当すること。

(ア) 住民票を移す直前の10年間のうち、通算5年以上、東京23区内に在住又は東京圏のうちの条件不利地域以外の地域に在住し、東京23区内への通勤(雇用者としての通勤の場合にあっては、雇用保険の被保険者としての通勤に限る。以下同じ。)をしていたこと。

(イ) 住民票を移す直前に、連続して1年以上、東京23区内に在住又は東京圏のうちの条件不利地域以外の地域に在住し、東京23区内への通勤をしていたこと。(ただし、東京23区内への通勤の期間については、住民票を移す3か月前までを当該1年の起算点とすることができる。)

(ウ) ただし、東京圏のうちの条件不利地域以外の地域に在住しつつ、東京23区内の大学等へ通学し、東京23区内の企業等へ就職した者については、通学期間も本事業の移住元としての対象期間とすることができます。

イ 移住先に関する要件 次に掲げる事項の全てに該当すること。

(ア) 平成31年4月1日以降に津南町に移住したこと。

(イ) 補助金の申請時において、移住後3か月以上1年以内であること。

(ウ) 津南町に、補助金の申請日から5年以上、継続して居住する意思を有していること。

ウ その他の要件 次に掲げる事項の全てに該当すること。

(ア) 津南町暴力団排除条例(平成23年条例第16号)に規定する暴力団員又はそれらと密接な関係を有する者でないこと。

(イ) 日本人である、又は外国人であって、永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者、特別永住者のいずれかの在留資格を有すること。

(ウ) 町税等及び移住前の住所地の市区町村税の滞納がないこと。

(エ) その他新潟県及び津南町が補助金の対象として不適当と認めた者でないこと。

(2) 就業に関する要件

ア 一般の場合

- (ア) 勤務地が東京圏以外の地域又は東京圏内の条件不利地域に所在すること。
 - (イ) 就業先が、新潟県移住・就業支援事業及び新潟県起業支援事業実施要領に基づき、新潟県が運営するマッチングサイト(以下、「マッチングサイト」という。)に掲載している求人であること。
 - (ウ) 就業者にとって3親等以内の親族が代表者、取締役などの経営を担う職務を務めている法人への就業でないこと。
 - (エ) 週20時間以上の無期雇用契約に基づき、マッチングサイトに掲載されている法人に就業し、補助金の申請時において当該法人に連續して3か月以上在職していること。
 - (オ) 上記(イ)の求人への応募日が、マッチングサイトに当該求人が補助金の対象として掲載された日以降であること。
 - (カ) 当該法人に、補助金の申請日から5年以上、継続して勤務する意思を有していること。
 - (キ) 転勤、出向、出張、研修等による勤務地の変更ではなく、新規の雇用であること。
- イ 専門人材の場合 内閣府地方創生推進室が実施するプロフェッショナル人材事業又は先導的人材マッチング事業を利用して就業した者は、次に掲げる事項の全てに該当すること。
- (ア) 勤務地が東京圏以外の地域又は東京圏内の条件不利地域に所在すること。
 - (イ) 週20時間以上の無期雇用契約に基づいて就業し、申請時において連續して3か月以上在職していること。
 - (ウ) 当該就業先において、移住支援金の申請日から5年以上、継続して勤務する意思を有していること。
 - (エ) 転勤、出向、出張、研修等による勤務地の変更ではなく、新規の雇用であること。
 - (オ) 目的達成後の解散を前提とした個別プロジェクトへの参加等、離職

することが前提でないこと。

(3) テレワークに関する要件 次に掲げる事項の全てに該当すること。

- ア 所属先企業等からの命令ではなく、自己の意思により移住した場合であって、移住先を生活の本拠とし、移住元での業務を引き続き行うこと。
- イ 地方創生テレワーク交付金を活用した取組の中で、所属先企業等から当該移住者に資金提供されていないこと。

(4) 本事業における関係人口に関する要件 移住する前年以前にふるさと納税をしたことのある45歳以下の者。

(5) 起業に関する要件 新潟県移住・就業支援事業及び新潟県起業支援事業実施要領第6に規定する企業支援事業に係る起業支援金(以下「起業支援金」という。)の交付決定を受けており、かつ、補助金の申請時において、当該交付日から1年以内であること。

(6) 2人以上の世帯に関する要件 次に掲げる事項の全てに該当すること。

- ア 補助金の交付を受けようとする者(以下「申請者」という。)を含む2人以上の世帯員が移住元において、申請者と住民票の上で同一世帯に属していたこと。
- イ 申請者を含む2人以上の世帯員が補助金の申請時において、申請者と住民票の上で同一世帯に属していること。
- ウ 申請者を含む2人以上の世帯員がいずれも、平成31年4月1日以降に津南町に移住したこと。
- エ 申請者を含む2人以上の世帯員がいずれも、補助金の申請時において移住後3か月以上1年以内であること。
- オ 申請者を含む2人以上の世帯員がいずれも、津南町暴力団排除条例(平成23年条例第16号)に規定する暴力団員又はそれらと密接な関係を有する者でないこと。
- カ 移住する直前の住所地の市区町村税の滞納がないこと。

(補助金の額)

第4条 補助金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるところによる。

(1) 単身世帯 60万円

(2) 2人以上の世帯 100万円

(補助金の交付申請)

第5条 申請者は、津南町移住・就業等支援事業補助金交付申請書(様式第1号)に次に掲げる書類を添えて、町長に提出しなければならない。

(1) 写真付き身分証明書の写しその他の提示により本人確認できる書類の写し

(2) 移住先の住民票(世帯向けの申請をする場合は、申請者を含む世帯員全員分)

(3) 移住元の住民票除票の写し(世帯向けの申請をする場合は、申請者を含む世帯員全員分)

(4) 移住元の市区町村における納税証明書(世帯向けの申請をする場合は、申請者を含む世帯員全員分)

(5) 別表第1に掲げる証明書類等

(6) その他町長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第6条 町長は、前条の規定による申請があったときは、その内容を審査し、適當と認めたときは、補助金の交付決定及びその額を確定し、津南町移住・就業等支援事業補助金交付決定通知書(様式第3号)により、申請者に通知するものとする。

(補助金の請求)

第7条 前条の規定により補助金の交付決定を受けた者は、速やかに津南町移住・就業等支援事業補助金請求書(様式第4号)により、補助金を町長に請求しなければならない。

(報告及び立入調査)

第8条 新潟県及び津南町は、移住・就業等支援事業が適切に実施されたかどうか等を確認するため、必要があると認めるときは、申請者に対し、移住・就業等支援事業に関する報告及び立入調査を求めることができる。

2 新潟県及び津南町は、申請者が前項に規定する報告及び立入調査に応じない場合、虚偽の内容で申請したものと推定し、補助金の返還を求めることができる。

(補助金の返還)

第9条 町長は、補助金の交付を受けた者が次の区分に応じて掲げる要件に該当する場合、補助金の全額又は半額の返還を請求することができる。ただし、雇用企業の倒産、災害、病気等のやむを得ない事情があるものとして、津南町と新潟県が協議して認めた場合はこの限りではない。

(1) 全額の返還

- ア 虚偽の申請等を行っていた場合
- イ 補助金の申請日から3年未満に津南町から転出した場合
- ウ 補助金の申請日から1年以内に補助金の要件を満たす職を辞した場合
- エ 起業支援金の交付決定を取り消された場合

(2) 半額の返還 補助金の申請日から3年以上5年以内に津南町から転出した場合

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この要綱は、告示の日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則(令和2年3月3日告示第17号)

この要綱は、告示の日から施行し、令和2年2月6日から適用する。

附 則(令和3年4月15日告示第45号)

この要綱は、告示の日から施行し、令和3年3月3日から適用する。

別表第1(第5条関係)

区分	証明書類等
補助金(就業の場合)の交付を受けようとする者	移住先の就業先の就業証明書(様式第2号の1)
補助金(テレワークの場合)の交付を受けようとする者	所属先企業等の就業証明書(様式第2号の2)
補助金(起業の場合)の交付を受けようとする者	起業支援金の交付決定通知書の写し
東京23区以外の東京圏から東京23区の	東京23区で勤務していた法人等の就業

法人等へ通勤していた者	証明書、移住元での在勤地、在勤期間及び雇用保険の被保険者であったことを確認できる書類
東京23区以外の東京圏から東京23区内に通勤していた法人経営者又は個人事業主	開業届出済証明書、移住元での在勤地を確認できる書類、個人事業等の納税証明書及び移住元での在勤期間を確認できる書類

様式第1号（第5条関係）

年　月　日

津南町移住・就業等支援事業補助金交付申請書

津南町長様

津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第5条の規定に基づき、補助金の交付を受けたいので、関係書類を添えて補助金を申請します。

1 申請者欄

フリガナ		性別	生年月日
氏名	印		年　月　日
住所	〒	電話番号	
メールアドレス			

2 補助金の内容（該当する項目に○を付けてください）

単身・世帯の別	単身・世帯	世帯簿場合は同時に移住した家族の人数（1の申請者は含まない）	人
補助金の種類	就業・起業		

3 各種確認事項（該当する項目に○を付けてください）

裏面「補助金の交付申請に関する誓約事項」に記載された内容について	A. 誓約する	B. 誓約しない
裏面「移住・就業等支援事業に係る個人情報の取扱い」に記載された内容について	A. 同意する	B. 同意しない
申請日から5年以上継続して、津南町に居住し、かつ、就業・起業する意思について	A. 意思がある	B. 意思がない
申請者を含む世帯員全てが津南町暴力団排除条例に規定する暴力団員又はそれらと密接な関係を有する者でないことについて	A. 該当する	B. 該当しない
(就業の場合のみ記載) 就業先の法人の代表者又は取締役等の経営を担う者との関係	A. 3親等以内の親族に該当しない	B. 3親等以内の親族に該当する
(テレワークの場合のみ記載) 津南町への移住について	A. 自己の意思である	B. 所属からの命令である

※ 各種確認事項の「B」に○を付けた場合、補助金の交付対象となりません。

4 移住元の住所

住 所	〒
-----	---

5 (東京 23 区の在勤者に該当する場合のみ記載) 東京 23 区への在勤履歴

※5 年以上の在勤履歴の記載

期 間	就業先	就業地

6 (テレワークによる移住者のみ記載) 移住後の生活状況

勤務先部署	
住所	〒
勤務先へ行く頻度	週・月・年 回程度 / 行くことはない / その他 ()

7 (ふるさと納税をした移住者の市町村確認欄)

確認者名 (課名・ 氏名)	
------------------	--

※ 東京 23 区への在勤後、移住前に東京 23 区以外での在勤履歴があれば、合わせて記入してください。ただし、当該在勤履歴がある場合、補助金の交付対象となりません。

○補助金の交付申請に関する誓約事項

- 1 移住・就業等支援事業に関する報告及び立入調査について、新潟県及び津南町から調査を求められた場合には、それに応じます。
- 2 以下の場合には、津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第 9 条の規定に基づき、補助金の全額又は半額を返還します。
 - (1) 補助金の申請に当たって、虚偽の内容で申請したことが判明した場合 : 全額
 - (2) 補助金の申請日から 3 年未満に津南町以外の市区町村に転出した場合 : 全額
 - (3) 補助金の申請日から 1 年以内に補助金の要件を満たす職を辞した場合 : 全額
 - (4) 起業支援金の交付決定を取り消された場合 : 全額

(就業の場合のみ)

(5) 補助金の申請日から3年以上5年以内に津南町以外の市区町村に転出した場合：半額

○移住・就業等支援事業に係る個人情報の取扱い

新潟県及び津南町は、移住・就業等支援事業の実施に際して得た個人情報について、新潟県及び津南町が定める個人情報保護条例等の規定に基づき適切に管理し、本事業の実施のために利用します。

また、新潟県及び津南町は、当該個人情報について、他の都道府県において実施する移住・就業等支援事業の円滑な実施、国への実施状況の報告等のため、国、他の都道府県、他の市区町村に提供し、又は確認する場合があります。

様式第2号の1（第5条関係）

就業証明書（移住・就業等支援事業補助金の申請用）

年　月　日

津南町長 様

所在地

事業所名

代表者名

印

電話番号

担当者

下記のとおり相違ないことを証明します。

記

勤務者名	
勤務者住所	
勤務先所在地	
勤務先電話番号	
就業年月日	
応募受付年月日	
雇用形態	週20時間以上の無期雇用
勤務者と代表者又は取締役等の経営を担う者との関係	3親等以内の親族に該当しない
※プロフェッショナル人材事業又は先導的人材マッチング事業を利用している場合のみ	目的達成後に離職することが前提ではない <input type="checkbox"/> プロフェッショナル人材事業 <input type="checkbox"/> 先導的人材マッチング事業

津南町移住・就業等支援事業に関する事務のため、勤務者の勤務状況などの情報を、新潟県及び津南町の求めに応じて、新潟県及び津南町に提供することについて、勤務者の同意を得ています。

様式第2号の2（第5条関係）

就業証明書（移住・就業等支援事業補助金の申請用）

年　月　日

津南町長 様

所在地

事業所名

代表者名

印

電話番号

担当者

下記のとおり相違ないことを証明します。

記

勤務者名	
勤務者住所 (移住前)	
勤務者住所 (移住後)	
勤務先部署の 所在地	
勤務先電話番号	
移住の意思	所属先企業等からの命令（転勤、出向、出張、研修等含む）ではない
テレワーク交付金	勤務者に地方創生テレワーク交付金による資金提供をしていない

新潟県移住・就業等支援事業に関する事務のため、勤務者の勤務状況などの情報を、新潟県及び津南町の求めに応じて、新潟県及び津南町に提供することについて、勤務者の同意を得ています。

様式第3号（第6条関係）

年　月　日

様

津南町長

津南町移住・就業等支援事業補助金交付決定通知書

津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第6条の規定に基づき、以下のとおり移住支援金を交付することを決定しましたのでお知らせいたします。

1 交付決定額 金　　円

2 交付条件

津南町補助金等交付規則及び津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱を遵守すること。

（備考）

1 津南町は、津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第9条の規定に基づき、以下の場合には、移住支援金の全額又は半額の返還を請求します。

- ・申請に当たって、虚偽の内容で申請を行っていたことが判明した場合：全額
- ・申請日から3年未満に津南町以外の市区町村に転出した場合：全額
- ・起業支援事業に係る交付決定を取り消された場合：全額
- ・申請日から3年以上5年以内に津南町以外の市区町村に転出した場合：半額

（就業の場合）

- ・申請日から1年以内に移住支援金の要件を満たす職を辞した場合：全額

2 津南町は、津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第8条の規定に基づき、新潟県移住・就業等支援事業が適切に実施されたかどうか等を確認するため、必要な事項の報告を求め、及び関係する場所に立入調査を行います。報告及び立入調査に応じない場合、虚偽の内容で申請したものと推定し、備考1に定める返還請求を行う場合があります。

3 【フラット35】地方移住支援型の金利引下げの適用について

- ・この通知書は【フラット35】地方移住支援型の金利引下げの適用を受ける際の必要書類であり、紛失した場合は金利引下げの適用を受けられない場合があります。
- ・移住支援金の返還を請求された場合は【フラット35】地方移住支援型の金利引下げの適用を受けられない場合があります。
- ・移住支援金を受領した方に対する【フラット35】地方移住支援型の金利引下げ制度の適用を受けるためには、交付決定日から5年以内に取扱金融機関への申込が必要となります。

4 株式会社日本政策金融公庫の創業者向け融資制度における特別利率の適用について

- ・この通知書は日本政策金融公庫による新規開業支援資金等の特別利率の適用を受ける際の必要書類であり、紛失した場合は特別利率の適用を受けられない場合があります。
- ・移住支援金の返還を請求された場合は日本政策金融公庫による新規開業支援資金等の特別利率の適用を受けられない場合があります。

様式第4号（第7条関係）

年　月　日

津南町長 様

申請者

住 所

氏 名

印

電話番号

津南町移住・就業等支援事業補助金請求書

年　月　日付け 第　　号で交付決定のあった津南町移住・就業等
支援事業補助金について、津南町移住・就業等支援事業補助金交付要綱第7条の規定によ
り、下記のとおり請求します。

記

1 交付請求額 金 円

2 振込先口座

金融機関名		本支店名			
口座番号	普通・当座				
ふりがな					
口座名義人					

様式第1号(第5条関係)

様式第2号の1(第5条関係)

様式第2号の2(第5条関係)

様式第3号(第6条関係)

様式第4号(第7条関係)